

友好のため はるばる 中国から



5月16日、友好都市の中国・黄石市から王 建鳴市長をはじめとする訪問団が来関しました。市役所で松浜保育園の鼓笛隊や田原保育園の園児たちから熱烈な歓迎を受けた一行は、尾藤市長や丹羽市議

会議長と面談し、市内の企業や病院、関商工高校を視察した後、小瀬鶏飼やまちおこしのイベントを見学しました。2日間で関市の文化を堪能し、両市の友好・親善もますます深まりました。

あんな事、こんな事



ふるさとのまちおこしに一役

中心市街地の活性化と刃物のまちをPRする「関の刃物とまちおこし」が、18、19日の2日間、本町通りほかで開催され、多くの人で賑わいました。本町通商店街では空き店舗を活用して刃物会社などの商品や地域の特産品などが販売されたほか、よさこいパレードやのど自慢大会など多彩なイベントが行われました。なかでも関商工会議所で開かれたアウトドアナイフショーは人気を集めていました。

次代を担う子どもたちのために

前市長の後藤昭夫さん（仲町）が、青少年の健全育成と文化振興のためにと市へ500万円の寄付をされました。関市職員として56年間、市長としては16年もの間、市の発展に貢献された後藤さんは、旭日小綬賞を受賞されました。後藤さんは「このたびの受賞は私一人のものではなく、関市民や職員を代表していただいたもの。これまでの感謝の気持ちとして寄付させていただきます」と話しました。





夏も近づく 一番茶摘み

毎年恒例の上之保中学校全生徒による茶摘みが行われました。生徒らは津保茶生産組合の長尾匡雄組合長から「一芯三葉」の茶摘みの指導を受け、早速、茶摘み作業に取り掛かりました。今年の収穫量は、昨年の2倍の約125キロで、製茶工場で加工され約30キロのお茶ができあがるそうです。6月には学校内の茶室で新茶を味わう会、1月には初釜会を開催し、地元の方を迎えて交流を深めます。

オリンピック選手からアドバイス

武芸川幼稚園の園児67人がプール開きにあわせ、元オリンピック選手の糸井統さんに水泳の指導を受けました。糸井さんはバルセロナ五輪において200メートル背泳ぎで第4位、アトランタ五輪でも第5位に入賞した世界トップクラスの選手。園児達は水に顔を付け、鼻から空気を出したりと、泳ぎの基本を習いました。バタバタと水を蹴るなど、楽しい水泳指導となりました。



愛の献血300回の偉業

27歳から40年かけて献血300回を達成した徳野修さん（洞戸通元寺）が達成の報告のため尾藤市長を訪ねました。徳野さんは札幌市に住んでいた頃、奥さんの出産を契機に献血を始めたそうです。今年4月末に岐阜市の献血ルームで300回目を達成しました。徳野さんは「一度も大きな病気をしたことがなく、健康な体に感謝している」と話し、皆さんも献血に協力してほしい、と訴えました。

迫力満点の真剣勝負

総合体育館において、5月18日、関青年会議所主催の「わんぱく相撲関場所」が開催され、市内の小学生約260人が参加しました。体育館に作られた3つの土俵では、まわしを締めた小さな力士たちが迫力満点の取り組みを繰り広げ、応援に駆けつけた観衆を沸かせました。なかには負けて悔し涙を見せる子の姿もあり、興奮と熱気に包まれた関場所は、大いに盛り上がりました。



こぼれ話



関市が全国に誇る伝統の小瀬鵜飼が、いよいよ開幕しました。鵜飼漁は、京都府宇治市や山口県岩国市、大分県日田市など、全国12カ所で行われています。鵜飼のスタイルもさまざまで、なかには1人の鵜匠が手縄の付いた鵜1羽を操り、自らも川の中に入り一団となって鮎を捕る「徒歩鵜飼」と呼ばれる鵜飼漁もあるそうです。数ある鵜飼のなかでも、唯一、長良川で行われる小瀬・長良川鵜飼は、宮内庁から式部職の命を受けて「御料鵜飼」を務め、宮中

の御用として捕れた鮎を献上しています。小瀬鵜飼の鵜匠は世襲制で現在、3人の鵜匠が活躍されていますが、鵜匠代表を務める岩佐昌秋さんの息子さん、賢知さんがこのたび宮内庁より「鵜匠補」を受けられました。賢知さんは4年前から中乗りとして鵜舟に乗船し、岩佐鵜匠を手伝ってきましたが、これからは鵜匠補として活躍することになります。こうして伝統の技が次の代へ脈々と受け継がれ守られていく小瀬鵜飼を、皆さんもぜひご覧ください。